

教員名	刑部 育子 (GYOBU Ikuko)
所 属	生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座
学 位	教育学修士 (東京大学)
職 名	助教授
URL / E-mail	gyobu.ikuko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

集団の中での子どもの発達 / 保育デザイン / アートと学び

◆主要業績

総数 (13) 件

- ・ 刑部育子・戸田真志・篠永成人 (2006) シナリオ・ベースド・デザインを目指した保育実践観察ツールの開発. 日本保育学会第 59 回大会発表論文集, pp. 740-741.
- ・ 小松 英寛・小川 貴生・刑部育子・岡本 誠 (2006) Scenario Exchange Project -シナリオベースドデザインを用いた国際ワークショップ, ヒューマンインタフェースシンポジウム 2006 論文集, pp. 503-508.
- ・ Masashi Toda, Machiko Nagaseki, Ikuko Gyobu, Mitsuki Uesugi, Ryosuke Tachibana, Shunichi Chikuta, Mikiko Matsui, Yusuke Kuwagaki, Kumi Nakasato, Saki Kato, Suguru Takeuchi, Risa Hayakuni, Ryoji Goto, Chika Ishiyama, Sho Kazama, Asami Narita, Misa Kizawa and Robert Seberry (2006) "Manabi-no-Kakera": Edutainment Software for Elementary Schoolchildren to Represent Fruits of Collaborative Learning", Proc. Of World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA2006), pp. 2644-2649.
- ・ Narihito Shinonaga, Masashi Toda, Ikuko Gyobu (2006) Learning Environment of the Children for the Social Competence Development by Conversion of Viewpoint. Proc. Of 28th Annual Meeting of the Cognitive Science Society (CogSci2006), p. 2604.
- ・ 中小路準一・斎藤明子・刑部育子・戸田真志・秋田純一・岩田州夫 (2006), 導電性布を用いた動的布絵本の設計. エンタテインメントコンピューティング 2006, pp. 97-98.

◆研究内容

(1) 「実践のデザイン過程を記述するフィールド心理学における方法論の開発」研究において、台湾国立交通大学と公立はこだて未来大学の国際ワークショップに参加し、デザイン手法の開発を進めました。その成果としてヒューマンインタフェースシンポジウム (2006) においてヒューマンインタフェース学会学術奨励賞を受賞しました。(2) (1) の参加型デザイン手法の応用としての作品「ナーサリー Message Book」を完成させ、現在、お茶の水女子大学附属ナーサリーで活用されています。(3) 教育実践フィールドに有効な観察調査ツールの提案を行いました。(4) さらに、附属小学校授業「アート」の一年に渡る観察を続け、アトリエ環境における学習についての研究を開始しました。

◆教育内容

平成 18 年度は「保育臨床学」、「保育臨床講義購読」など行われましたが、中でも「保育臨床実習」では、平成 18 年度より特別教育研究経費「幼・保の発達を見通したカリキュラム開発」(代表: 浜口順子) が開始され、附属幼稚園、附属いずみナーサリーで観察実習、新たな記録共有化の方法を試みました。0~5 歳の発達と学びの連続性に重点を置いた幼稚園教諭要請カリキュラムの構築を目標とし、大学と附属幼稚園と附属保育所とが連携した教育カリキュラムの改革を推進中です。「発達臨床特別演習Ⅰ・Ⅱ」では幼稚園・小学校・中学校におけるインターンシップを実施しました。「発達臨床論文演習Ⅰ・Ⅱ」(卒論) において平成 18 年度提出タイトルは「ナーサリーパンフレットのデザインプロセス」、「自閉症児が他者とつながり感のある親密な関係を結ぶまでの過程」、「特別支援教育における子供の学びをつなぐもの」、「子ども集団における軽度発達障害児の学びに関する関係論的分析」、「授業「アート」から探る」です。

◆共同研究例

教育実践調査用観察ツールの開発

◆将来の研究計画・研究の展望

アトリエ的環境における学びの実践について附属小学校との連携研究

◆研究の実用化（今後実用化したいテーマ）

教育調査用観察ツール

◆受験生等へのメッセージ

お茶の水女子大学敷地内には、日本で最も歴史ある附属幼稚園があります。また、国立大学の中で附属校として初めての保育所、いずみナーサリーが大学と同じ敷地内に設置されました。乳幼児期の教育プログラムを開発するため、大学と幼稚園・保育所が連携した研究プロジェクトが進行中です。このような学習環境が備わる中で実践的にそして専門的な保育・子ども理解・発達を学ぶことができます。